

2023年2月3日（金）

老球の細道714号

## 2022年度全会津バスケットボール男女総合選手権大会（百井杯）雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コロナで2年間開催中止になっていた会津選手権大会が3年ぶりに開催された。1965年（昭和40年）に第1回が開催されて58年の歴史を持つ大会だけに、昨年までの2大会開催中止は非常に残念だったが、今年度は大会役員の皆様のおかげで無事開催できたことは非常に喜ばしいことであった。ちなみに私が高校生の頃は、本大会と会津若松市の伝統行事「十日市」は新年の二大風物詩であった。

本大会は高校チームと一般チームが混在する会津地区で最強のチームを決する最高で最大の大会である。一般チームは他地区からの助っ人選手やかつての地元高校チームのレジェンドなどが集結し高いレベルのプレイを見せてくれる。それに対して地元高校チームがどれだけ対抗できるかが県大会レベルの試金石になっている。

男子決勝は一般のクラブチーム同士の対決になった。地元の卒業生を中心に県外から高いスキルを持つ選手達の戦いになった。シュートの入れ合いになったが、個人的なスキルは高校生に非常に参考になるものがたくさんあった。男子はベスト4に地元の高校チームが残らずちょっと寂しい大会になった。

女子はサプライズがあった。今年度インターハイ、ウインターカップに県代表として出場した福島東陵高校の3年生チームが参加したのである。チームの中には元Wリーグ選手で東陵高校コーチの星望先生も混ざっていた。

女子決勝はこの福島東陵高校3年生チーム「STAR OF HOPE」と県新人大会で惜しくも優勝を逃がした会津高校が挑んだ。一桁差のゲームで会津高校は善戦したが、セネガル選手の高さ、会津湊中出身の浅沼（早）、渡部（奈）選手らの上手さの前に惜敗した。

コロナ下の今大会では無理だったかもしれないが、男女共に決勝戦は地元の小、中学生、途中で敗退した高校生には是非見てほしかった。普段トップレベルの大会やプレイを生で見る機会の少ない会津のチーム、選手、コーチ達には、少しでも高いレベルのゲームや選手を見るチャンスがあったら見逃さないでほしい。生で良いプレイを見ることは、プレイのイメージーションを高めることに役立つ。ミニでのナイスプレイレベルと大人のナイスプレイレベルとでは速さ、激しさと全然違うのである。

ミニ、中学、高校と徐々に県レベルダウンしていくわが会津地区が今後取り組むべき課題は二つあるのではないだろうか。一つは、高校生が今大会で一般チームを倒す気概を持つこと。もう一つは、一般チームが正式なクラブチームとしてJBA登録し、切磋琢磨する場面を会津地区で満足することなく県、東北、全国に求めること。会津は常に全国を目指す。

現状維持に満足しないでウサギ年にちなみジャンプする。そのために「3つのチャレンジ」に挑んでほしい。①できることを完璧にできるようにする②できないことをできるようにする③新しいことにチャレンジする。今日は節分。努力の鬼は内に、安逸は外に。